

2016年度 第5回 静岡市多文化共生懇話会 会議録

1 日 時 平成28年10月3日(月)19:00~20:30

2 場 所 静岡市国際交流協会 1階 第2会議室

3 出席者 多文化共生懇話会委員 9名
土屋 真理、王川 絹子、エリック ハナワルト、デレゲルチチグ、小田 エリーザ、
烏仁、朴 政浩、カイン モン イー、吉野 恵津子
市事務局、静岡市国際交流協会

4 傍聴者 なし

5 次 第 (1)開会
(2)意見交換
「日本人住民が多文化共生意識を学ぶ機会の充実」について
(3)事務局から
(4)閉会

○土屋会長

それでは議事に入ります。事前に皆様に郵便でお知らせしてありますが、本日の議題は「日本人住民が多文化共生意識を学ぶ機会の充実について」です。皆様の考えを一人ずつ3分程度でお願いいたします。

○エリック委員

日本人住民が多文化共生意識を深めることは非常に大切ですね。そのため、青葉シンボルロードや外国語学校等で開催される多文化に触れるイベントは、非常に多くの方が多文化を理解する良いきっかけだと思えます。また体験型のイベント等は、より多文化を理解しやすいものであるため、料理教室や体を動かすスポーツアクティビティ等が、親子向けに定期的で開催されれば良いと思えます。それによって、大人だけでなく子ども達も理解や関心を深めることができますよね。料理教室の場合、料理をしながら、日本の食文化と外国の食文化の違いに触れることができるし、食事に対する考え方の違いにも触れることができます。例えば宗教上の理由で食べられないものを理解することで、逆の立場で考えることができるし、外国人が日本食とどのように向き合っているかも知ることができます。

スポーツアクティビティは、料理教室と同様、体験型のイベントであり、これに関しては年齢を問わず、誰でも参加できる方がいいと思えます。国や文化が違っても、スポーツアク

テレビを通して、皆が一つのチームになれる。協力し合うことは、互いを知る良いきっかけになると思います。以上です。

○デレゲルチチグ委員

留学生が親善大使役として日本の学校や施設を訪問し、自国の文化を紹介するという事が大切だと思います。国際交流協会等で既にやっている事業もありますが、もっと世界各国の文化を紹介できたらいいと思います。

もう一つはやっぱり静岡市で、定期的な講演会が無いことが問題だと思います。私は以前関西にいたのですが、そこでは例えばネパール人やネパールを研究している研究者を呼んで、講演を開く事が非常に多く、モンゴルやチベットやウイグルなどの人権問題に関するイベント等は東京や大阪では頻繁に開かれています。講演会は人権問題だけに限らず、人々の文化や生き方を理解するための重要な場だと思うんですね。

一方で、静岡市あるいは静岡県内では、そういった機会が非常に少ない。欧州から来た人、ユーラシア大陸から来た人、中国の南の方の研究者等がいっぱいいますから、その人達を呼んで定期的に講演を開催する事は、皆さんにとっても非常に勉強になるんじゃないかなと思います。私達留学生もそういった講演はできるし、実際私も関西にいた時や、たまたま東京でシンポジウムとか交流会があった際には講演等を行っていました。未だにやっていますが、やっぱり多くの日本人の方に、日本人とは違う文化や価値観を持った人々が世の中にいっぱいいることを知ってほしいと思います。そういった意味で、私が今言ったようなことを取り組んでいったらいいかなと思いました。

○小田委員

身近なところから繋がりを作ることがすごく大事だと思いますね。例えば自分が住んでいる町内会では、皆声を掛け合う等の触れあいをしているので「地域の日本人と触れ合うことは大事だな」とすごく感じるんです。他の外国人の事はあまり分からないのですが、南米人はあまり地域社会で日本人と触れ合わないんですね。なので、普段の生活の中で、ちょっとした交流で繋がりを作っていくとか、少し大きい規模ならば、町内会のイベントに参加するとか、お祭りに参加する等の機会を作ればいいんじゃないかなと思います。

また多くの日本人は、ひょっとしたら無意識的に「外国人＝欧米人」と思っているのではないのでしょうか。静岡市内には、いろんな外国人がいるっていう事を知ってもらうために、子どもやその親たちが外国人に接する機会を設けるのも必要ですね。例えば保育園や幼稚園に中国人の方の子どもが通っているとしたら、親御さんと子ども両方を対象にした、中国を紹介するイベント等を開いてもいいと思います。その際に、何か、例えば国の伝統芸能、伝統文化を紹介して、その国について触れてもらうことで「静岡には欧米人だけじゃなく、色んな外国人がいるんだ」と意識してもらえらるきっかけになると思います。

あとは外国人といえば、やっぱり言葉の壁が一番大きいと思うんですね。特に南米人の場合

は日本語ができないっていうのが、大きな大きな壁となり、日本人との触れ合いを深められない要因になっています。なので、日本人と深く触れ合うためには一体どうすればいいのかなっていうのを考えて、出てきたアイディアは、スポーツを介して何かをやるということでした。例えばミニオリンピックとかミニ〇〇大会とか。そうすると言葉が通じなくても、スポーツを介して交流をしながら絆をつくっていきける。また、スポーツだけじゃなく、花火大会や花見等のイベントを企画して、手作りのお弁当を持ち寄り、交流を深めるとか、身近なところから絆を深めていったらいいのかなと。あんまり大きなレベルで目指すと、目標ばかりが大きくなりすぎちゃって、日本人の多文化共生意識っていうのが追い付かないかもしれないので、身近な地域から繋がりを重ねていって、だんだん多文化共生を知ってもらえたらいいのかなと思いました。以上です。

○烏仁委員

今3名の委員の話聞いていて、やっぱり多文化共生を日本人に知ってもらうのは簡単な事じゃないと思いました。エリーザさんは町内会と関わっているから、近所の人達との繋がりを感ぜられるのかもしれないけど、留学生なんかでは、そういうのが難しい状況が結構あります。自分の場合だと、エリーザさんが言ったように、前は地域の住民や町内会と結構交流があったけど、引っ越して、賃貸(アパート)に住むようになってからは、基本的に隣の住民が誰なのか、日本人なのかすら分からない。そうすると、誰かと顔と合わせた時に「こんにちは」程度しか話さなくなるんですね。私が外国人だから、そのような態度を取っているっていうわけではなく、日本人の生活スタイルなのかな。だからこそ、そこでいきなり仲を深めることは出来ない。結局町内会の参加もない。だったらどういう風に日常生活において日本人と付き合い合っていけばいいんでしょうか。

子ども同士は学校で十分にうまく付き合っているんですよ。だけど小学校の場合、うちは学童に行っているから、普段から午後の時間帯にママ友と付き合い合っていることもない。同じクラスのママ達を知らないの、参観会とかで顔を合わせたりしても、あまり話せないんですね。静岡の中では何となく外国人は浮いてしまうから、それは悲しい関係でもあります。自分から何を話しかければいいのかわからないし、やっぱり文化の違いはあるから、エリーザさんが言ったように、日本語が上手でないと深くコミュニケーションが取れるとは思えないですね、私の場合だと、私は10年以上日本にいますけど、そう感じます。そこをどう乗り越えるかというと、日本人住民だけでなく、外国人住民も含めて、多文化共生意識を学ぶ講座があるといいですね。情報の交換、そこで具体的な例を挙げながら身近なところから多文化を学んでいくしかない。市内には多くの外国人がいて、私達も地域や市内で行事とかがある時に、やっぱり参加したいんですよ。だけど全然情報が分からなくて参加できない。市役所が「こんなイベントやります」とか、外国人に向けて「こんなイベントありますよ」って広報紙に載せたりしているんですが、実際情報がなかなか入って来ない。また逆に、市内の日本人に対して「外国に関する情報」をまとめたものがない。例えば、市内のタイ料理屋の情報や「こ

ここで〇〇国の、こんなことが学べます」といったイベント情報をまとめた、マップとかがあってもいいんじゃないかなと思います。日本人でもそのような情報が欲しいと思っている人がいると思うので。私が言いたいのは、ターゲットを誰にするかというのを今決めるんじゃないで、外国に関する情報をまとめたものをまず作るのが大事。日本人をターゲットにするのか、外国人をターゲットにするのかを考えるのは、次のステップだと思います。外国人向けなら簡単な日本語だったり、もし予算が付くなら英語とか他の言語でも作っていいと思いますよ。静岡県内で観光できる場所を探ることができても、外国のことにに関する情報を知りたいなと思った時に見られる情報があるといいと思いますね。マップにまとまっているなら、なおさら見やすいし。別にそれは紙媒体じゃなくてもいいのですが。

○朴委員

前にも言いましたが、「静岡オリジナル」をアピールすることや、静岡に住んでいる外国人に「静岡に住んでよかった」と思っていたきたいというのが自分の中にあります。留学で来ている人と居住している人とは、スタンスが変わってきますが、留学している学生は、静岡を基本的に通り過ぎる人なので、国に帰ったら「静岡よかったよ」って言ってもらいたいですね。彼らは結局スピーカーですから、「静岡だめだよ」って言ったら、聞いた人たちは多分静岡に来ないんで。そういった点で、もっと留学生に関しては神経を使うべきだろうと思います。

あと、静岡市が求めているものが僕は結構漠然としてきちちゃっています。僕はこの懇話会に入って3期目になりますが、明らかに1期目、2期目と今回の3期目とは、環境が違ってきますね。1期目2期目っていうのは、一言でいうと「のほほん」としていたんです。静岡人の気質というか環境のせいなんでしょうね。だけど、ここ最近はかなり殺伐としていて、インターナショナルっていう意味がすごくネガティブな感じ、僕はそんな雰囲気は思えて仕方がない。

僕はオールドカマーの第3世で、1世のおじいさん、おばあさんが日本に来てからもう70年、80年経っているんですけど、昔から(移民は)色んな問題に直面してきました。1世は何が一番大変だったかという、言葉が喋れなかったこと。日本人が1,000円もらうところ、朝鮮人・韓国人は700円の給料だった。なぜか。「日本語でしっかり仕事をこなせる」と認めてもらえないから。アメリカを例えで見ても、スペイン語しか喋れない人がアメリカ国内に何千万人もいて、英語を覚えた奴らだけが、どんどん頑張っている。僕らのおじいさん達も、生きていくために日本語を一生懸命習いましたね。中国人だってそうです。日本語をいっぱい覚えて、時給1,000円のところ1,000円になった。今言った例は、アメリカとか日本だけじゃなく、どこの国でも起こることで、やらなきゃいけないこと。どういった方法で日本語を習得させるのかっていうのが、政策としてまだまだ弱い。だから外国人たちの中には、日本語習得を挫折しちゃう人もいます。留学生はある程度目的を持って日本に来るのに対し、例えばフィリピンから来た女性が、自分は日本語が喋れず、子どもだけがどんどん日本語を習得し

ていくという現実がある。どのように外国人に日本語を習得させるのかと考えるのは、とても大事なこと。

静岡市は70万人の人口をキープしたいと思っているけど、日本全体でどんどん人口が減少していくじゃないですか。30年後を考えると恐ろしい数字になっていて、外国人労働力がないとやっていけない状況になっている。ぼくは登呂に住んでいるんですけど、三菱電機の工場なんかは東南アジアからの人がもうすごいですよ。「もう、こういう状況なんだ」と実感するんです。彼らがいなくても工場は回らない。彼らはどのくらいの日本語を習得しようとしているんでしょうね。よく浜松なんかである、出稼ぎのブラジルの人が5年だけ日本にいて、ぱっと帰国するのと同じ状況なのか、それとも日本に住みたいのか。人それぞれだと思うんですが、行政の方も、本当にどれくらいの本気度を持って外国人にアプローチしようとしているのか、難しい話ですよ。さっき朝鮮学校のチラシをばらまかせていただきましたが、実はこの朝鮮学校はもう70年以上伝統のある学校なんです。これはほとんど外国に例が無い、特殊なスタイルを持った学校なんです。オールドカマーが作った学校で、2世3世まで日本人と関係を持っているっていうスタイルはほとんど70年前と変わっていません。

以前僕がびっくりしたのは、「朴さんは差別をされたことがありますか、今もそういう事を思い出しますか」と聞かれたので「毎日思っていますよ」って答えたら「えー！」と言われたことです。日本人は正直、欧米人には圧倒的に弱いんです。それは戦争に負けたからなのかもしれませんが、太刀打ちができない。だけど、アジア人やアフリカ人、途上国出身の人に対しては明らかに態度が違う。烏仁さんがおっしゃったように、日本人には悪い人がそんなにいないんですけど、我々のようなアジア人が近寄ったら逃げていく人が多いんです。「日本人」と思って喋りかけたのに、喋り口調やニュアンスで、相手が日本人じゃないと察した瞬間、ぱっと離れていってしまう。このような話は周りからよく聞くんですよ。

結局、欧米人であろうが日本人であろうが外国人であろうが、オールドカマーであろうがニューカマーであろうが、同じ人間だから仲良くやりましょうっていうのが僕のいちばんの言いたいことなんです。基本的にはラブ&ピースで仲良くしていきたいんですが、日本人の相互理解力が足りないと感じることが多い。日本人はクリスマスを祝い、かと思えば初詣をする。柔軟性を持った、ある意味すばらしい民族だけど、宗教や海外の行事に関して「分かった風」のままではいけない。やっぱり相互理解を深め、相手の事を知らなきゃいけない。知る努力をもっとしてほしい。そして、外国人はやっぱり日本語を習得しないと、日本は受け入れてくれないので、絶対外国人は努力すべき。もうそれは一つの当たり前の事。

僕の子どもが保育園だった頃は、日本の子と、朝鮮の子と、フィリピンの子と日系ブラジル人の子と、ごちゃ混ぜでした。彼ら5歳児は「誰が何人」だってことは全く関係ないですね。まず国籍を理解していないのですが、これこそが本来の姿なんだと思います。喧嘩もしてまずけどね。ただ交流を通じて、お互いを知る。大人になるとそういう事が出来ないんでね。そういう意味では子どもは非常に素直です。幼稚園児は無理だけど、小学校以上の子達が相互理解を深めるために、ディベートやディスカッションをもっと増やすことが大事だと思う。

若い世代の人達には、今後ますます必要なスキルですね。
一番手っ取り早く日本人と外国人が仲良くなる方法は、実はアクシデントだったりします。関東大震災の時には、在日朝鮮・韓国人達は5,000人以上殺されてしまったという、むごい事があったり、3.11の時も外国人が女性を襲っている、泥棒しているという事件がありました。表面上なかなか出てこない情報ですが、実際そんな事が起きたんですよ。さて、そんな事件もありましたが、3.11の東北大震災を受けて、朝鮮学校が2年前に建て直しをしたんです。もともとは耐震設計をしていなかったのですが、震災の後には多少手をかけるようになりました。ハザードマップを見ると、中島地区は津波の被害を多く受ける地域に位置します。朝鮮学校は避難地として設定され、今までお付き合いのなかった町内、朝鮮学校の周りの人達が朝鮮学校に来るようになりました。そうすると、町内の人々がどういふ人か分かってくる。トラブルをマイナスに捉えるのか、「皆で頑張りましょう」と前向きに取り組むのかで大きく違ってくるんですよ。お互いを知らないから怖いのであって、知れば怖くない。知るための努力を日々しなければならぬ。本当に予算が付くのなら、やはりお互いを知るためにもっといろんなことに取り組むことも大事ですね。

○カイン委員

今回のテーマで私が考えたことは2つあります。1つ目は、静岡市には色んな外国人が住んでいて、市内でもインドネシア人が開催する文化祭や、フィリピンのフェスティバルとかミャンマーを紹介するイベント等、色んな行事が開催されているんですが、そのようなイベントが開催されているっていう事を、もっと皆に知らせたい。参加にお金がかからないことが多いし、参加することでたくさんの方が学べると思っています。イベントの情報だけでも静岡市に住んでいる日本人達に知って欲しいですね。私達の学校や、日本語学校等では毎年秋に文化祭があって、国ごとに文化や宗教について紹介しているんですが、私自身も、毎年見に行くと、行くたびに違う文化を学べます。

イベント周知の最初の段階として、市内の学校、大学や専門学校とかに必ず掲示板がありますので、例えば、近々開催される「異文化コミュニケーション体験フェア」のイベントポスターとかを貼ってもらおうようにお願いしたら、イベントの情報も多くの人に提供してもらえると思います。私達はそこ（掲示板の前）を毎日通るから、絶対に見ますよ。若い人達は特に外国について興味があると思うし、一旦興味を持ち始めると、友達や家族を誘ったりしてイベントに行くので、たくさんの方の参加が期待できると思います。だから、お知らせやポスターを色んな所に貼って欲しいなっていうのが私のお願いです。

あと2つ目に考えたことは、デレゲルさんが言ったように、外国人による文化紹介の講演等をやった方がいいと思います。実は、去年ネパールで大きな地震があった時、私達の学校にネパール人が一人いたので、募金活動を始めたんです。だけど、みんなネパールの事がよく分からない。国についても、文化についても、ほとんどの生徒は知識がなかった。だから、食堂の前に募金箱があってもあまり反応がなくて。それを見た私達の先生が、そのネパール人に

講演をさせたんです。ネパールについて色々紹介してもらい「こんな文化や考え方があるんだな」って聞いた皆が理解することができた。そして、心から募金を行うことができた。ネパール人の友達はパワーポイント等を使って、国の紹介をしてくれて「こんな食べ物があるんだよ、この歴史がきっかけでこんな文化が始まったんだよ」と詳しく教えてくれた。聞く前まで「なぜその国にはこんな文化があるんだろう」って分からなかったことが、その友達の講演を聞いて分かるようになったんです。学生には、そういう講演を通じた方が多文化を理解しやすいのかなって思いました。

○吉野委員

私は今回のこのテーマについて、逆に日本人の方々に「どう思う？」と聞いてきました。まず青葉シンボルロードで開催されるフェアなんですけど、すごく集客が少ないんじゃないかと思えますね。食べ物のところはお勢人が集まるんだけど、私達みたいに、ブロックを分けてもらってブースを出している団体には、来てくれるのは身内や、一緒にテントを出している人ばかり。ほとんど一般の人が立ち寄ってくれることが無かった。それはすごく反省点として挙げてきたんです。それ以前に、一般の方はこのイベントがあることすらほとんど知らなかった。もうちょっと上手に情報を流して、イベントが○月○日にあるよって知らせたかったという声も聞きました。イベントがあること自体を知らなかった人が多かったっていうのは本当にもったいない。清水はこの前9月25日(日)に福祉まつりをやったんですが、来場客は3万人でしたよね。昔、清水の国際交流協会はその(福祉まつりの)会場を借りて、イベントをやったことがあるんですけど、人々がわっと集まるようなイベントに出すことを考えた方がいいっていう意見も出ていますね。

そして、先ほど出た「マップを作る」という案、すごくいいアイデアだと思ったんですよ。私は一週間くらい前にベトナム料理のお店に行っただす。ちょうど知り合いも来ていましたが、「ここにこんなお店があるのを知らなくて、初めて来たんだよ」と言っていました。考えてみると、清水区にはネパール人がやっているカレーのお店とか、素敵なお店がたくさんあるんですよ。だから、市民の方がいつでも簡単に手に入れられて、目的のお店がぱっと見つけられる地図があるといいですね。自分がその地図を持っていて、例えば、この人はカレー屋さんに行きたいんだなと分かったら、「カレー屋さんはここにあるよ」って案内できるし。まず食文化からガイドしていく。やっぱり食べる事っていうのは、我々の生活の一部なので。食を通じて異文化を理解するってすごくいいアイデアだなと思いました。絶対食べることで興味があるから。

実は、一般の人は他の国の文化をどうやって学んだらいいか知らないということもあるんです。ユネスコ協会では、年に2回、外国の文化を紹介してもらう会をやっています、今度もタイの人にやってもらうんですけど、毎回参加人数がすごく悪いんですよ。それは何故かという「宣伝が下手だから」。それに気が付いてからは、チラシをたくさんもらってきて、周りに配ることを始めたんです。タイの講演は10月に開催し、去年11月に静岡市国際交流協会でも講

演えんをしてくれたルワンダかたの方は、今回11月に清水しみずで講演こうえんをしてくださることになりました。そして、そういう事ことを一般市民いっぱんしみんにもっと知しってもらいたいのですが、最近さいきんでは静岡気分しずおかきぶんにほとんど載のせてもらえないんですね。3か月前げつまえに言いっても掲載けいさいしてもらえないことが多くて、事務局じむきょくが言いわなくなっちゃったんですよ。一面いちめんの中で葵区あおいく、駿河区するがく、清水区しみずくの全部ぜんぶの情報じょうほうを載のせなきゃならないから紙面しめんが足りない。

○鳥仁委員

お金かねがかからない方法ほうほうだと、やっぱりネットを使うとか。

○吉野委員

私達わたしたちもインターネットができればねえ。若手わかての事務局員じむきょくいんがいれば。

○鳥仁委員

もし市しがインターネット情報掲示板じょうほうけいじばんとか持っているのであれば「情報じょうほうを載のせてください」と申請しんせいすれば、情報じょうほうをアップしてもらえるんじゃないですかね。

○吉野委員

市しでそうことはやってくれるんですか？そういう媒体ぼいたいがあれば便利べんりですよ。

○朴委員

もし市しがやっていないのであれば、業者ぎやうしゃに頼たのんでホームページたを立ち上げればいいと思うし。チラシちらしを苦勞くろうして作つくらなくても、外国人がいこくじんはWi-Fiがさえあれば情報じょうほうを何なんでも取り入れるんで。もうそういう時代じだいなんでね。ネットりようを利用して情報じょうほうを広ひろげていかないと。

○土屋会長

日本にほんに来きたばかりの外国人がいこくじんに対して情報提供じょうほうていきようをすることも、もっと力ちからを入れた方がいいですよ。色いろんな言語げんごで説明せつめいするとか。

○鳥仁委員

言語げんごも必要ひつようですけど、日本人にほんじんは絵えが得意とくいなので、そういったイラストつかを使って、いろんな事ことを説明せつめいしてみてもいいかもしれない。日本文化にほんぶんかを紹介しょうかいするとか。工夫次第くふうしだいですよ。

○王川委員

私わたしはもっと生涯学習しょうがいがくしゅうセンターや交流館こうりゅうかんでの国際理解講座こくさいりかいこうざや国際交流会こくさいこうりゅうかいを、積極的せつぎよくてきに企画きかくして開催かいさいして欲しいほしいと思います。実際じっさい、職員じやくいんは年間ねんかんたくさんの講座こうざを企画きかくして、予算よきんを調整ちようせいし、外国人講師がいこくじんこうしと打ち合わせうちあわせをして、講座こうざを開ひらいています。講師探しこうしさがしに苦勞くろうしているのも現

実です。人材不足で企画できないこともあるんですよ。

去年私が勤めていた蒲原生涯学習交流館では、ネパール人が国際交流会を開いてくれて非常に良かったし、今年度はインドネシアを紹介したんですよ。彼女の日本語は完璧じゃないけど、向上心が溢れ出ていて、彼女のそういう姿勢が受講生にとっても好評でした。実際に交流会を開催すると、日本人の受講生達はその国について大変関心を持ち、また、とても刺激を受けています。このような講座をこれからもやってほしいとは思いますが、実際は講師が見つからなかったり、予算の関係からなのか、次に繋がっていかない。

そのため、交流館の職員には広報（イベント告知）と講師の案内にもっと力を入れてほしいですね。市の生涯学習交流施設は実際力がありますし、毎月広報を載せるし、地域に資料を配布できるんですし。そのためにはやっぱり職員も国際理解の意識を高める事、そこがポイントですね。国際交流協会も多文化共生課も「静岡市にたくさんの外国人人材がいますよ、出張講座できますよ」というアピールすることがますます必要になってくると思います。

生涯学習交流館は清水だけでも21館あります。1館あたり1講座を開くだけで、年間21本の講座を開くことが可能なんです。もちろん交流館それぞれが「やってほしい」と希望を出さなきゃいけないんだけどね。こういった問題が上手く解決できれば、もっともっと国際理解、国際交流という枠を広げられるなと思います。外国の事に興味がある日本人だったら、積極的に参加しますしね。

○鳥仁委員

私達が「これをやった方がいい」と声をあげた時、行政の人達はそれを実行してくれるのか、それとも予算の関係上「できない」でその話をなかったことにするのか。行政がどこまで本気で取り組むのかが大事ですよ。

○王川委員

そう。もうちょっと職員一人ひとりの国際交流、国際理解意識も高めていかないと。「静岡市にはたくさんの外国人がいるんですよ。そういう人達から話を聞いて、多文化共生意識を高めましょうよ。」と職員がもっと声を上げてアピールしてもらいたいですね。

○土屋委員

ありがとうございます。それでは本日の議事は以上です。皆様ありがとうございます。